令和８年度第１回帯広市交通安全市民会議　議事要旨

１　日時

令和８年８月 24 日（月）　9:30～10:58

２　会場

帯広市役所　10 階　第５ＡＢ会議室

３　出席者

（１）委員

中馬　いづみ、塚本　俊二、小森　明仁、秋山　和仁、村岡　克己、本間　悦子、
遠山　美津子、土谷　賢一、吉村　典子、湯浅　光優、髙倉　美惠子、中村　博明
（以上 12 名、敬称略）

※欠席委員　太田　義彦、佐藤　寛之、河瀬　正直、高谷　政伸
（以上　４名、敬称略）

（２）帯広市

帯広市長　上野　庸介（※会議次第（２）まで）

（事務局）

総務部長　河原　康博、危機対策室長　尾澤　琴也、
危機対策課長　野崎　実、危機対策課長補佐　田口　賢祐、
危機対策課主任補　相野　裕介、危機対策課主任補　手塚　優人、
危機対策課係員　髙橋　叡
（以上８名）

４　会議次第

（１）　開会

（２）　市長より第 12 次帯広市交通安全計画に関する諮問

（３）　議事

①令和７年度帯広市交通安全実施計画実績報告について
②令和８年度帯広市交通安全実施計画（案）について
③第 12 次帯広市交通安全計画（骨子案）の報告
④諮問に対する審議

（４）　その他

（５）　閉会

５　議事・発言要旨等

（１）市長より第 12 次帯広市交通安全計画に関する諮問

第 12 次帯広市交通安全計画作成に向け、帯広市長から帯広市交通安全市民会議に対し諮問書を手交した。

（２）議事１　令和７年度帯広市交通安全実施計画実績報告について

[資料１　令和７年度帯広市交通安全実施計画実績報告]に基づき、説明。

質疑等なく承認された。

（３）議事２　令和８年度帯広市交通安全実施計画（案）について

[資料２　令和８年度帯広市交通安全実施計画（案）]に基づき、説明。

質疑等なく承認された。

（４）議事３　第 12 次帯広市交通安全計画（骨子案）の報告

[資料３　第 12 次帯広市交通安全計画（骨子案）について]に基づき、説明。

（５）議事４　諮問に対する審議

審議前段で、[資料５　今後のスケジュールについて]に基づき、今後のスケジュールを説明。

その後、[資料４　交通事故発生状況について]を活用し、[資料６　第 12 次帯広市交通安全計画について（諮問）]、及び[資料７　諮問に関する補足説明]について説明。

３つの項目ごとにそれぞれ審議を行った。

※以下発言要旨

【諮問に対する審議：補足説明１　交通安全に係る現状と課題について】

○　令和８年９月から、生活道路における法定速度が 30 キロになる。生活道路での交通事故を減らす、無くす目的であると思う。ここ十勝でも生活道路における事故があるはずだが、資料４のデータを見るだけではわからない。

この法改正では、生活道路に新たに標識ができるわけではなく、生活道路の法定速度がそのまま 30 キロとなる。しかし、運転者がそれを認識せず、今までどおり「標識がないから 60 キロ制限だろう」と走行する限り事故は減らない。どのように周知徹底させるかが重要。

このほか、自転車は法律上軽車両であるため、原則車道走行だが、年齢や安全が保たれていないような車道等、やむを得ない場合、歩道走行が可能と認識している。自転車利用者は、十分加害者になり得る趣旨の周知・啓発を重要視していくべき。

○　自転車は車道、歩道、どちらを走るのかがあやふや。突然、歩道から車道に降りてくることもあり、自動車運転者にとってはヒヤヒヤする。先日は逆走している高校生を見かけることもあった。

　正直中高生はなかなか広報紙を見ないという印象。学校など子どもの手元に届くようなチラシを作成すべき。交通ルールを守れているかといった問いかけや、青切符による反則金の詳細を記載した広報おびひろでの内容を更に分かりやすく、子どもたちの目に届くような形で作成した方が良い。

○　子どもたちを対象に行っている周知について、その内容を大人が知る必要もあるかと思う。広報紙等でお知らせいただけると親世代も安心できるのではないかと考える。

○　免許返納について講習を行った場合、代替の移動手段の確保も説明する必要があると思う。市が提示できる代替の移動手段は、おでかけサポートバス事業のみだと思われる。本事業では年に一度アンケートを取り、公表しているが、回答内容が「持っているがバスを使わない」、「バス無料乗車証自体申請していない」という回答や、「バス停が遠い」、「バスに乗れるような体力がない」といった回答が多い。

　自由回答の中には「バスでなくタクシー乗車証へ変更してほしい」趣旨の回答が毎年多数見られるため、この先、検討していく必要があるのではないかと思うし、高齢者の運転免許証返納については、計画等に盛り込むべき時期が来ているのではと感じている。

○　交通事故を無くす方向で考えることはもちろんのこと、世の中の現状を踏まえると、災害対策の観点から交通安全をどう把握していくかといった視点も求められるのではないか。

○　第10次、第11次と５年間ごとにデータを取っており、発生件数等事故が着実に減少してきているが、それでもゼロにならないという現状があるため、今までも取り組んできた内容を着実に推進しなければならないと思う。

　学生は自転車事故が多いこと、高齢者は歩行中の事故や運転時の事故が多いこと、夕方の事故が多いこと等に対し、各種状況に応じたデイライト運動や、街路灯の整備等しっかりと対応していく必要がある。

　街路樹が視界の妨げになっていることも気になる。緑や環境の維持という観点もあるが、交通安全の面では剪定等検討していかなければならないと思う。

　自転車は、可能な限り歩道を走ってほしいと思うが、歩行者と自転車が共存しながら安全に走行できるようにするために、歩道整備、見通し確保、暗い場所の明るさの改善等ハード面の整備が必要である。

　ただ、最も重要なのは啓発活動であり、小学校における春先の自転車安全教育や高校

生への指導なども徹底いただきたい。広報紙にもそのような内容を掲載し、現状をできるだけＰＲしながら交通安全を推進してほしいと考える。

○　歩道が歩道として機能していないような道路や、路面がつぎはぎだらけで車が蛇行しながら走らざるを得ないような環境が非常に多く見られる。そのような場所での事故の有無は不明だが、街路樹の話も含め、歩けないような場所があると認識している。

先日の大雨の際に雨水桝が詰まり、水が歩道まで上がってきて、１台レッカーで運ばれる事態もあった。そのような状況になってから点検作業を行うのではなく、事前に現状把握いただきたい。

交通事故が発生した場所について、運転者の問題ももちろんのこと、要因が道路環境にないかを含め、原因究明を行っていく必要があると感じている。原因の大半は運転者によるものと思われるが、それを引き起こした原因も併せ考える必要があると思う。

○　車のみならず、歩行者についても注意が必要ではないかと思われる。国道付近の暗く距離の長い場所を横切って交通事故に遭うケースや、夜間に黒い服で見えない状況などもある。歩行者に対しても注意を促すような取組を行っていくべき。

○　自転車の走行レーンは道路上にあるが、自転車専用車線はまだないと思う。外国では自転車専用の道路が整備されているところもある。すぐには実現不可能であっても、今後可能なのかと思う。

○　冬季の融雪剤散布は、二次除雪だと思われる。市は数年前と比較し、サービス低下が見られる。現在は民間委託はなく、全て帯広市の直営車両だと認識している。

令和７年11月改訂の第二次帯広市総合除雪基本計画内では、融雪剤散布車は老朽化や、市道路線の延長により、行政主体の対策が困難であると記述されている。

基本計画の中に、これほど困難であると記載されているのであれば、市側が積極的に車両を確保するか、あるいは民間委託に戻すということを検討いただきたい。帯広市の気候環境においては、雪が降った後は必ず晴れるため、融雪剤を散布いただければ路面が露出される。二次除雪の中の融雪剤散布について、より強力に取り組んでいただきたい。

○　救急活動の充実というところで、ＡＥＤを使った講習が行われているが、交通事故は起こり得るため、その後の対策が大事。皆がＡＥＤを利用できれば、事故後の対策として助けられる命があるため、ＡＥＤがどこにあるかも知っておくことが重要。

【諮問に対する審議：補足説明２　第 12 次帯広市交通安全計画における目標について】

○　交通事故死者数ゼロを目標に掲げることは妥当だと思うし、本来そうあるべきだと思うが、令和５年の実績を見ると、死者数はゼロだが、それ以外の発生件数等が第 11 次計画期間の中で飛び抜けている。不幸中の幸いで死者数がゼロなだけである。交通事故死ゼロという項目を目標に掲げるのみならず、交通事故件数の数値全体を見るべき。

【諮問に対する審議：補足説明３　今後の対応方向について】

○　冬季間の排雪について、帯広市内は昔から南北の道路が非常に混雑する。特に朝夕の通勤時間帯になるとラッシュとなり、その時間帯に緊急車両が来た場合、排雪されない雪が道路脇にあるため、緊急車両が避けられず、消防車や救急車も共に連なっていたことを認識している。

　費用等かかる問題ではあり早期対応は困難と認識しているが、この問題は無視できないと思うため、是非検討していただきたい。

○　外国人は複数人で来日する方が多く、バイクの二人乗りも懸念点としてある。

　外国人に対する交通安全教育・啓発について、単語レベルでの意思疎通は容易かもしれないが、日本語での文章は内容を正確に理解いただくことが容易ではないと思う。外国人へ伝わる啓発方法はもっと考えていくべきところ。

　帯広市はＳＮＳを活用した発信が充実しているが、日本語の発信情報のあと、異なる二つほどの言語で掲載しても良いのではと思う。

　また、同じバイクという視点では、最近、大型車両とバイクの衝突事故を目にする機会があり、おそらく高齢者がバイクに乗車しており、トラックに衝突したと思われる。高齢者に対しては、若いころと比較すると認知機能等は違うといった趣旨の啓発が必要かと思う。

○　外国人の方が見るか否か別とし、市公式ＳＮＳにおいて外国語で発信いただくことは、外国人にとってもよいかと思う。

○　全て重要かもしれないが、一番重要なのは交通安全教育だと思うし、学校における教育活動は最も重要だと思う。子どもの頃から自転車の乗り方、道路の歩き方をしっかり教育すべき。

　また、現に教育活動も受けている小・中学生は大人よりもマナーが良く、横断歩道も自転車を降りて渡っているため、これ以上ないと思いつつ、逆に大人に対しても少しでも教育ができれば良いと思う。地道な活動が事故を減らす要因になると思う。

○　参加者自身の興味・関心のある分野のイベントに交通安全教室を組み合わせることで、交通安全への意識を持っていただく機会になりえると感じる。